

大会名	平成29年度北信越高等学校新人バスケットボール選手権大会			
	男子準決勝			
28A2	2018	年	1	月
場 所	28	日	10	: 40
	津幡町運動公園体育館			



北信越バスケットボール協会

石川県高等学校体育連盟バスケットボール専門部

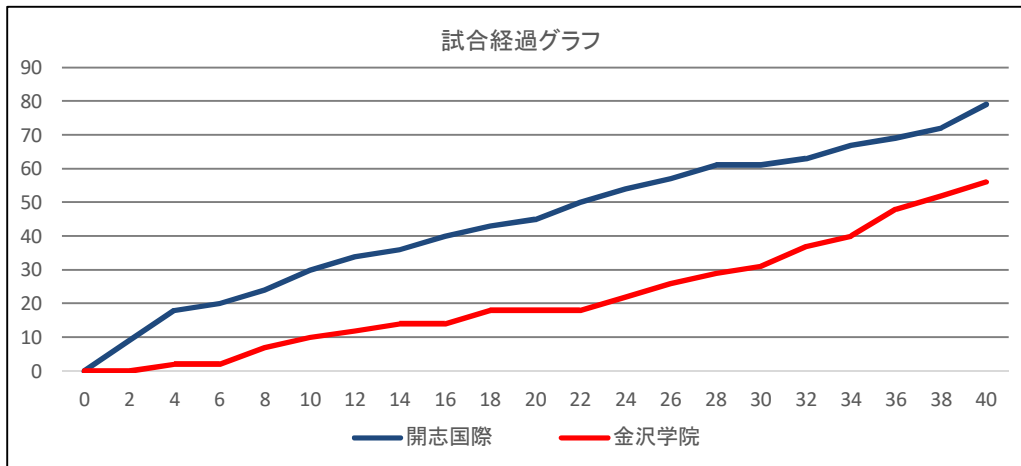
チームA		チームB
開志国際	30 1st 10	金沢学院
新潟県1位	15 2nd 8	56 石川県1位
○	16 3rd 13	●
	18 4th 25	
	OT	

主審:Referee
 濱 住 知 明 富山県
 第1副審:Umpire1
 箱 崎 敬 知 石川県
 第2副審:Umpire2
 渡 辺 達 朗 福井県
 テーブルオフィシャル:Table officials
 星稜高等学校

TEAM A		開志国際					
No	s	Name	PTS	3P FG	2P FG	FT	PF
4	*	小 池 文 哉	8	2	1	0	0
5	*	小 栗 瑛 哉	4	0	2	0	2
6		和 田 蓮太郎	5	0	2	1	1
7		丸 山 遼	4	0	2	0	3
8		津 田 優 弥	4	0	2	0	1
9	*	相 馬 迅	11	2	2	1	2
10		清 水 瑠 衣	0	0	0	0	1
11		北 本 愛 貴	0	0	0	0	1
12		金 谷 拓 海	5	1	1	0	2
13		山 岸 秀 斗	5	1	1	0	0
14		永 原 陸	0	0	0	0	2
15	*	エルハジ アサン シラ	24	0	12	0	2
16		田 村 步 夢	0	0	0	0	0
17	*	板 澤 明 日 起	9	1	3	0	2
18		高 木 拓 海	0	0	0	0	2
HC		富 樫 英 樹	-	-	-	-	0
合 計			79	7	28	2	21

TEAM B		金沢学院					
No	s	Name	PTS	3P FG	2P FG	FT	PF
4		安 廣 優 哉	0				
5	*	請 田 祐 哉	9	1	2	2	1
6		加 藤 碧 透	2	0	1	0	3
7	*	上 浜 烈 吏	0	0	0	0	1
8	*	高 木 健 正	8	0	4	0	0
9	*	番 場 望	0	0	0	0	1
10	*	小 林 翔	7	0	3	1	1
11		浦 辺 亮 泰	7	0	3	1	1
12		片 桐 楓 太	8	0	4	0	0
13		小 酒 尚 也	0				
14		和 多 智 樹	5	1	1	0	1
15		西 田 尚 之	0				
16		相 馬 憲 吾	10	0	4	2	0
17		平 澤 舞 斗	0				
18		青 山 大 空	0				
HC		石 過 祐 樹	-	-	-	-	0
合 計			56	2	22	6	9

s : スタートメンバー PTS : 得点 3P FG : 3P イントシュート 2P FG : 2P イントシュート FT : フリースロー PF : ハーフコートファウル



男子準決勝は新潟県1位開志国際と石川県1位金沢学院の各県1位チーム同士の対決となった。
 第1Q、両チームともマンツーマンディフェンスでゲームに入る。開志国際の外国人留学生#15エルハジのリバウンドから開志国際の点が積みあがっていき、11-0となったところで金沢学院のタイムアウト。そこから金沢学院は、#15エルハジの守り方を変え、オフェンスでは#5請田と#10小林がミドルシュート、3Pシュートを決めていき開志国際を追いかける。しかし、開志国際の#15エルハジにオフェンスリバウンドからのシュートを決められ、30-10で終了。
 第2Qも両チームともマンツーマンディフェンスの戦術の中、開志国際は#6和田と#15エルハジの2m級の選手間でハイローオフェンスを仕掛けて得点を重ねる。金沢学院は#10小林、#5請田にボールを集めて個人技からシュートを決めに行くが、思うように得点が伸びずに45-18と開志国際が大きくリードして前半終了。
 第3Q、金沢学院は早々にチームファウルが増えて苦しい展開となるが、一方で開志国際も前半ほどシュートが決まらずに一進一退の攻防となる。第4Q、金沢学院がディフェンスで仕掛け、オールスイッチで開志国際を混乱させると、オフェンスでは#12片桐と#16相馬といった控えメンバーが得点を伸ばしていく。金沢学院は最後の10分間で点差を7点つめたが、ここでタイムアップ。夏の北信越高校総体を制した開志国際が前評判通りの力を発揮して決勝戦進出となった。